

令和 6 年度第 1 回守山市自殺対策連絡協議会 議事録

日時：令和 7 年 2 月 7 日（金）

午後 2 時から午後 3 時 20 分まで

場所：守山市役所 3 階 31、32 会議室

【出席者】

委 員：（名簿順）福田会長、太田委員、湊上委員、田中委員、三上委員、辻本委員、
高橋委員、北川委員、五太子委員

事務局：健康福祉部 武内部長、川上次長

すこやか生活課 堀江課長、金沢参事、岩波主査、阿部主査、
梅本主任保健師、清保健師、大田事務員

地域包括支援センター 川島課長補佐

子育て応援室 浦西主査

学校教育課 山口指導主事

【欠席者】

藤本委員

【議事内容】

1 開会

2 協議事項

（1）令和 6 年度本市の自殺者の特徴（年代・原因）について

事務局	資料 1 について説明
湊上委員	市内駅前マンションで市外の中学生、成人男性が自殺した案件があった。市内で自殺した市外の方は、全体の何割くらいになるか把握はしているか。また、マンションに自殺対策の啓発は行っているか。
事務局	市外の自殺者数の把握はしていない。また、マンションに対して自殺対策の啓発等を行う事業はしていないが、守山駅に相談窓口の情報などを掲載したうつ啓発のポスターを掲示したり、自殺予防週間には駅前で街頭啓発活動を実施するなどの対策を行っている。
辻本委員	警察では、自殺者の居住地は問わず、守山署で取り扱った件数となる。現時点で令和 6 年の暫定の自殺者数は 13 件である。そのう

	ち飛び降りは3件で、自殺の方法で最も多いのは縊首である。
高橋委員	消防でも同じく市内で発生したものを取り扱う。統計的には自損行為としてデータを計上している。令和6年の暫定の出動回数は34件である。搬送、不搬送は問わない。令和2年は24件、令和3年は24件、令和4年は24件、令和5年は20件で、総出動件数の1%を切っている件数である。令和6年の自損行為の概要は、薬剤服用14件、縊頸9件、刃物5件、飛び降り3件、入水1件、練炭1件、不明1件である。
田中委員	自殺の大きな要因に家庭問題があるが、家庭問題には実際にどんなものがあるか。
事務局	親子・夫婦関係の不和、家族の死亡等がある。若年者では家族からの叱責、虐待等もある。親子関係、夫婦関係が主な要因となる例が多い。
太田委員	家庭問題の原因に対する検証はされているのか。例えば、家庭問題の件数自体が増加傾向にあるのか、そもそも把握しづらいことなのか、それとも事前に把握し支援したうえで未遂が起こっているのかなど、どのように家庭問題を把握しているのか教えてほしい。
事務局	令和6年度では以前から家庭問題を把握していたケースが未遂に至ったというケースがあったが、多くの自殺未遂者については未遂が起こったことで問題を把握するというケースが多い。家庭問題は支援者が把握していても、対象者の発達特性、発育歴も関係しており、介入の難しさがある。
太田委員	最近、相続問題等で紛争性の高い相談事案が増えてきている。家族の形も変化してきており、今後も家庭問題が増える可能性もあるため、支援方法を検討してほしい。
三上委員	他市では、湖南いのちサポート相談事業で取り扱う事例には、女性の過量服薬が増加していると聞いているが、守山市でも同じような状況か。
五太子委員	管内でみると若年者の過量服薬は多くなっている。過去の経年を見ているとリストカットが多かったが、過量服薬が増えてきている。若年層の特に10～30歳代の件数が年々増加している。過量服薬の種類として処方薬が最も多く、次いで市販薬の使用が多くなっている。市販薬の入手方法として、インターネットで購入したという声を聞く。
福田会長	自殺者には被雇用者・勤め人が多いが、その職種に傾向はあるか。

田中委員	特に職種の把握はしていない。従業員のメンタルヘルス対策は重要で、結果的に企業の業績向上や雇用対策にもつながる。経済産業省からも従業員の心のケアの重要性について指摘されている。
福田会長	未遂者に学生・生徒がいる。北川委員、何かご意見はあるか。
北川委員	生徒の思いを早く汲み取るため週2回思いノートの記入を実施している。何かあれば学年会議を実施し支援方針の検討、保護者への連絡等、緊急性を考え迅速に対応している。中高生の自殺は、いじめ等長期に抱えている問題が原因のこともあるが、とくに飛び降りや衝動的なものが大きいと聞いている。そのため生徒からの発信には特に注意して対応している。
福田会長	今回出た意見については、関係機関と共有してほしい。

(2) 令和6年度取組結果および令和7年度取組について

事務局	資料2について説明
淵上委員	市社会福祉協議会ではひきこもりアンケートを実施するなど、ひきこもり対策に重点的に取り組んでいる。市社会福祉協議会との連携はあるか。 また自殺予防教育について、数年前に市内中学生が自殺未遂をした原因として学校の生徒指導が問題となっていた。メンタルヘルスの観点から、生徒への指導に対してどのように取り組んでいるか。
事務局	重層的体制整備事業として会議を開催しており、庁内の関係機関だけではなく、市社会福祉協議会も含め、その他関係団体にご参加いただき、地域の課題について定期的に話し合う場を設け連携強化を図っている。また、まもなく社会福祉協議会実施のアンケート結果がまとまると聞いており、それらを踏まえて、今後の市の対策や連携のあり方について検討していきたい。
北川委員	生徒指導上、加害生徒に対して指導する必要があるときにも、対応する際は感情的にならない、丁寧に事情を聞き取る等留意している。近年は生徒も保護者も多様になっており、体罰はもちろん許されないが教員の言葉遣い、態度にも非常に気を付けている。また、部活動の指導についても、生徒との信頼関係や、受け取る側の精神的苦痛に配慮しながら指導している。
太田委員	生活困窮対策について、近年食料品やガソリン等、生活必需品の値上げがあるが、それとともに困窮の相談件数は増えているか。
事務局	令和5年度から6年度の相談件数は大きく変わらないと感じてい

	る。しかし、困窮相談の件数自体は多いため、フードバンクの支援や、困窮の窓口から緊急的に生活保護の担当課につなぐなど、連携して支援にあたるようにしている。
太田委員	今後もさらに物価高が予見される。困窮者の後見人の対応もしているが、米の値上げが厳しいとの声もある。生活がますます苦しくなり、相談件数が増えることが考えられるので、出来る範囲で対策をお願いしたい。
渕上委員	今年度ひきこもり支援ガイドブックを民生委員・児童委員に配布いただいたが、大変分かりやすく感謝している。公民館にも設置されていると思うが、部数が少なくなっており、市民も活用されているのではと思う。在庫が残っているようなら、公民館に設置状況の確認と再度追加で配布をお願いしたい。
福田会長	オンライン相談、およびストレスチェックの二次元コードの利用状況について聞きたい。
事務局	オンライン相談は、ホームページから1件申し込みがあり、Zoomを利用して実施した。ストレスチェックは、チラシ等複数媒体で二次元コードを周知しており、アクセス数は今年度2月上旬までで155回ある。
福田会長	家族介護者訪問について、対象者の選定基準はどのような条件で行うのか。また、人の手で抽出するのは数も多く大変だと思うが、認定調査委員の負担はどうか。
川島課長補佐	昨年度までは機械的に抽出していたが、今年度は内容を精査して抽出している。介護保険サービス申請時の認定調査の内容を確認し、そこから介護負担を感じている家庭をピックアップ、リスト化して地域包括支援センターの職員による訪問等を実施した。抽出作業は認定調査員ではなく、長寿政策課の職員が行っている。